

三陸沿岸道路(尾肝要道路・普代道路)の 開通後の交通状況や効果についてお知らせします

～尾肝要道路:国道45号の交通が転換。安全性、利便性が向上～
～普代道路:安定搬送や応急処置までの時間短縮で救急救命に貢献～

東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとして三陸沿岸道路等の整備を進めています。
このたび、尾肝要道路(開通直後)と普代道路(開通4ヶ月後)の交通状況及び効果について取りまとめましたのでお知らせします。

【位置図】



【尾肝要道路】(平成26年3月2日開通)

- ◎交通量が転換し、45号交通量が約9割、大型車は約8割減少。
- ◎沿線利用者が利便性や安全性、定時性の向上を実感(別紙)

	総交通量			大型車交通量		
	供用前	供用後	摘要	供用前	供用後	摘要
尾肝要道路	—	2,500台/日		—	600台/日	
国道45号(現道)	2,400台/日	300台/日	約9割減少	600台/日	100台/日	約8割減少

※供用前(H26.2.19)、供用後(H26.3.5)

【普代道路】(平成25年10月13日開通)

- ◎傷病者の安定搬送や応急処置までの時間短縮により救急救命に貢献(別紙)

	総交通量			大型車交通量		
	供用前	供用4ヶ月後	摘要	供用前	供用4ヶ月後	摘要
普代道路	—	2,300台/日	約7割減少	—	500台/日	約8割減少
国道45号(現道)	4,300台/日	1,400台/日		820台/日	130台/日	

※供用前(H25.10.2)、供用直後(H25.10.17)、供用4ヶ月後(H26.2.12)

発表記者会: 久慈報道機関各社、宮古記者クラブ、東北専門記者会

〈問い合わせ先〉

国土交通省 東北地方整備局 三陸国道事務所
電話番号 0193-62-1711(代表)

副 所 長 としま まもる 戸嶋 守 (内線204)
調査第一課長 なりた しんたろう 成田 信太郎 (内線451)

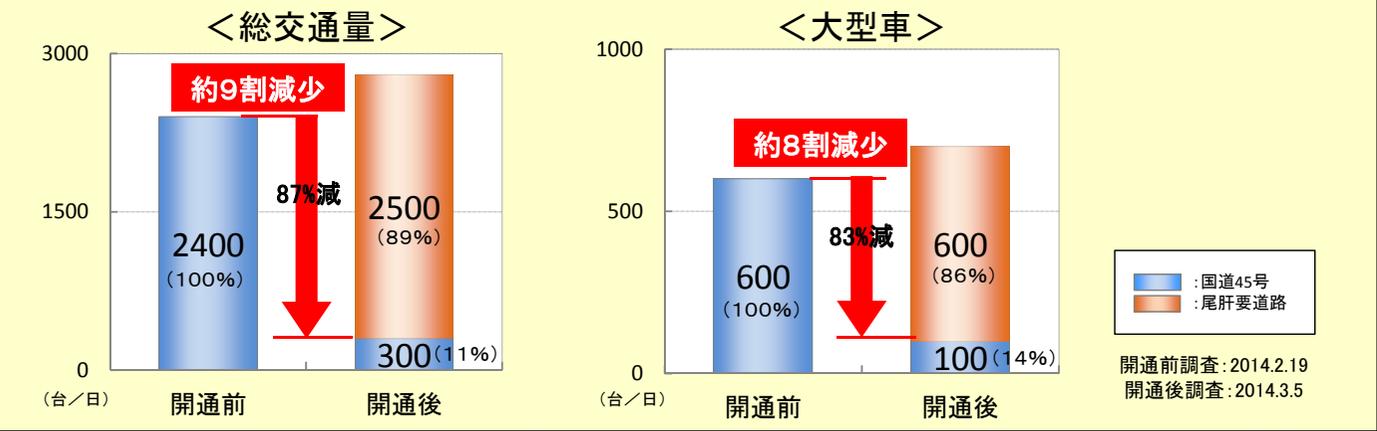
【開通直後】三陸沿岸道路 尾肝要道路が開通して

(平成26年3月2日開通)

- ①交通量が転換し、45号交通量が約9割、大型車は約8割減少。
- ②沿線利用者が利便性や安全性、定時性の向上を実感。

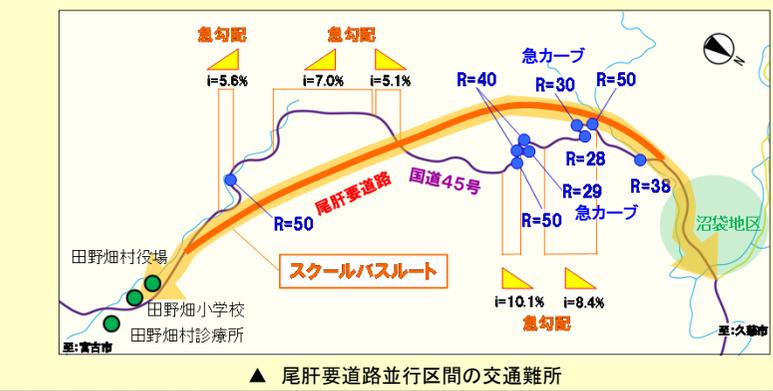


①交通量が尾肝要道路へ転換、交通量が約9割、大型車は約8割減少。



②沿線利用者が生活利便性や安全性、定時性の向上を実感

- 生活利便性の向上【地元住民の声】
 - ・国道45号は急勾配や急カーブが連続し、特に冬期は事故が心配でしたが、尾肝要道路は勾配が緩く急カーブもないことから安心感が大きいです。
 - ・閉伊坂峠の難所解消で、役場や診療所などへ通いやすくなりました。 ※ヒアリング調査より
- 安全性・定時性の向上【スクールバス運転手の声】
 - ・スリップやスタックの心配も無くなり、安全にスクールバスを運行できます。
 - ・通学時間も5分ほど短縮し、降雪時に遅れる心配がなくなりました。 ※ヒアリング調査より



【三陸沿岸道路 尾肝要道路の事業概要】

- 工事期間: 平成21年度～平成25年度
- 延長: 4.5km ●幅員: 12m ●総事業費: 約105億円

▲ 尾肝要道路並行区間の交通難所

H26.3.4撮影

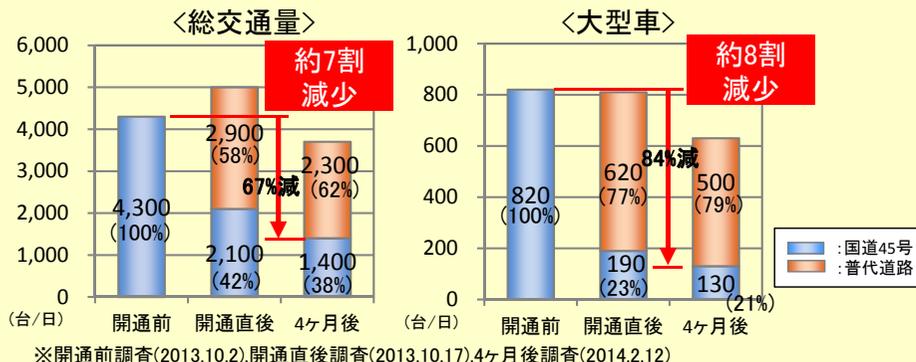
【開通4ヶ月後】三陸沿岸道路 普代道路が開通して

(平成25年10月13日開通)

- ①交通量が転換し、45号交通量が約7割、大型車は約8割減少。
- ②救命救急において、安定搬送や早急な応急処置に貢献。



①交通量が普代道路へさらに転換、 45号の交通量が約7割、大型車は約8割減少



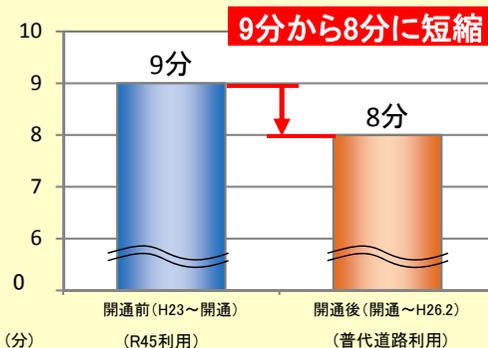
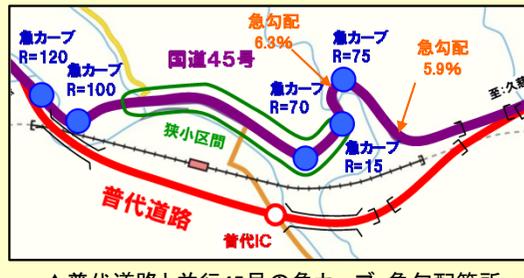
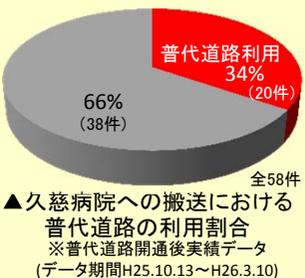
【水産加工会社の声】 ※ヒアリング調査より
岩泉方面から八戸方面へ輸送の際、村内の狭くカーブがきつい区間を通らずに済み、冬場も事故の心配なく安心して走行できます。

②傷病者の安定搬送や応急処置までの時間短縮により救命救急に貢献

約3割が
普代道路利用

救急車内での処置が安定し
傷病者の負担が軽減

現場到着の時間が短縮し、
早急な応急処置が可能に



【消防の声】

搬送時の揺れが軽減され、車内で安定して応急処置ができ、傷病者の負担が軽減されました。



【消防の声】

重症の場合は、1分1秒を争います。普代道路の開通で、現場到着の時間が短縮し、早急な応急処置が可能になりました。

